

中小企業相談所ファイル

事業承継事例

少子高齢化、人口減少は、企業経営においても大きな影響を及ぼす問題です。就労の場を維持し、人々の生活を安定させる意味でも事業承継は取り組まなければならない重要な課題です。ここでは「事業承継」に関する苦小牧商工会議所・中小企業相談所の相談事例を紹介します。

◆相談と提案◆
平成27年11月、鉄鋼物工事を行う(株)高田組(苦小牧市宮前町)の当時の代表者であつた高田勝義氏が商工会議所を訪れた。「廃業を考えているので手続きを教えてください」との相談だつた。

同社は、昭和51年に個人事業所として創業。王子製紙(株)苦小牧工場の機械関係工事を請け負っていた。その後、徐々に業務を拡大し、平成4年に法人化。現在では道内の火力発電所、プラント、ゴミ処理施設などで内部機械、タービンの修繕、メンテナンス、部品加工などを行っている。営業内容を見ると業績は

好調。従業員は10人ほど在籍。相談を受けた経営指導員は、廃業を考えるような企業ではないと判断し、事業承継を提案した。

◆専門機関との連携◆

中小企業相談所では、公的な支援機関である北海道事業引継ぎ支援センターへ支援を依頼。中小企業診断士の派遣を受けることとなつた。高田社長との面談の中で、廃業ではなく親族外承継者として高橋純取締役への承継またはM&Aの2案が提案された。

平成28年1月に新社長候補となつた高橋氏夫妻らと面談。その後、同社の関与税理士、事業引継ぎセンター診

断士、日本政策金融公庫と連携しながら、高田社長、高橋取締役と打ち合せを重ねた。当面は高田社長が会長職に就き、引継ぎにあたる方針となつた。

◆急遽、新社長就任◆

平成29年に入り更に相談を進める中、同年3月に高田社長が急逝し、高橋取締役が急遽社長に就任する。

事業を引継ぐにあつての諸手続き、株式譲渡に必要な事項、日本公庫へのMBO資金申込、マル経融資制度を活用した先代の個人資産(事務所や工場用地)の買取り、運転資金の確保、会計や労務管理への相談対応などクリアする課題が山積。商工会議所がコーディネーター役

となり、引継ぎ支援センター、日本政策金融公庫室蘭支店、同社関与税理士とそれぞれの専門分野で事業承継支援を行い平成30年にバトンタッチを完了した。

◆ご案内◆

(株)高田組の高橋社長へのインタビュー動画が北海道事業引継ぎセンターのホームページ(事例紹介コーナー)に掲載されています。

事業承継のご相談は、苦小牧商工会議所経営支援課まで。電話33-5454



高橋社長(左)と高田取締役(前社長夫人)



会員サービス事業ご案内 都市間高速バスチケット好評発売中

<苦小牧~札幌><苦小牧~大谷地>のバス回数券を特別料金にて販売しております。ビジネス、レジャーにご活用下さい。

▶ 苦小牧~札幌 1,120円
<通常現金払い運賃 1,320円>

▶ 苦小牧~大谷地 1,020円
<通常現金払い運賃 1,130円>



・通常4枚綴りの回数券が1枚から購入できます。・バスチケットは、道南バス、中央バスでご利用できます。
・有効期限はありません。